

わたしの修習時代

紀尾井町：1948-70

湯島：1971-93

和光：1994-

72期(2018/平成30年)

今でも続く同期とのつながり



会員 栗山 明久 (72期)

修習時代を振り返ると「いい人達に出会ったな」「楽しかったな」との記憶が思い出される。

72期は、新型コロナウイルス感染拡大前の最後の修習だった。導入修習から二回試験に至るまで対面で行われていたし、裁判期日においてMicrosoft Teamsは未だ使われていなかった。当時は、「電話会議よりも、顔が見えるWeb会議の方がいいじゃないか」と思っていたが、新型コロナウイルス感染拡大を経てTeamsを利用した期日がここまで普及するとは、大変驚きである。

実務修習地は立川であった。立川は、比較的小規模な人数でさまざまな事件が経験できるという噂があり、人気だったと記憶している。実際、多種多様な事件を見せてもらう機会に恵まれ、とても有意義な時間を過ごすことができた。

修習時代は、対面を最大限に活かし、勉強したり、遊んだりの毎日であった。

勉強について、検察修習では、同じ班に検察志望の同期がいて、周りのみんなでサポートしながら修習を乗り切った。彼が志望通りに検察官になり、自分もとても嬉しい気持ちになったのは忘れられない。

裁判修習では「今後、もう一生裁判官室に入れないよな」と思い、夜遅くまで記録を検討したり、裁判官室の書籍を読んでみたりと勉強に多くの時間を費やした。恥ずかしい話であるが、裁判を傍聴した経験がなく、リアルな裁判手続は非常に勉強になった。振り返ると、あの時に真面目に修習に取り組んで本当に良かったと思う。

弁護修習では、起案、法律相談の同席、契約書の点検など、弁護士の仕事を追体験できた。また、「依頼者対応は弁護士の個性が出るな」と感じ、各弁護士の電話対応の仕方を聞いて勉強させてもらった。

各修習で経験したことは現在に至るまで本当に役に立っていると感じる。

遊びの方とはいうと、同期と飲みに行ったり、ダーツやビリヤードで遊んだ記憶がある。飲み会では、まじめな話からそうではない話まで色々な話をした。ダーツやビリヤードは、自分は上手ではなく負けが越していたが、とても楽しかった。

休日には、高尾山に足を延ばしたこともあった。10名弱で行ったのだが、大人数でハイキングというのも珍しく、とても楽しかった。どれも素敵な思い出として自分の心に残っている。

現在でもつながりは続いている。同期の結婚式に参列したり、子どもの出産報告がLINEで届いたり、去年はたまたま一緒に初詣に行く機会にも恵まれた。飲み会で話すトピックは、仕事の悩みや苦労話、家庭と仕事とのバランス、将来のキャリアプランなど、あの頃とはずいぶん様変わりしているが、今でも楽しく話ができている。いい出会いに感謝しており、これからも大事にしていきたいと思っている。

心残りは、新型コロナウイルスの感染拡大により、謝恩会ができなかったことだ。弁護士になって5年目になるが、この節目に教官・同期と会えたら嬉しいなと思っている。